

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名				
○保護者評価実施期間	2025年 11月 25日		～	2025年 12月 8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数)	16
○従業者評価実施期間	2025年 11月 25日		～	2025年 12月 8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数)	18
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 5日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との連携	連絡アプリを導入し、コミュニケーションの機会を増やしている。	既読がつくまで時間がかかったり、ずっと既読が付かないこともあるので、定期的に声掛け等で促していく。
2	職員の専門性と配置	適切な職員配置や専門性を持つ職員を確保している。	より細かな支援ができるよう、会議や研修を通して児童への理解を深め、引き続き専門性の向上を目指していく。また第1、第2で専門職が配置されているため、様々な専門分野での療育ができるようお互いのプログラムを共有していく。
3	支援計画の共有と実行	職員間で支援計画を共有し、計画を実行している。	支援計画共有の効率化を目指していく。保護者様や学校の先生、スタッフ間で情報を共有し、その内容をより詳細な記録として残していくことで次回の支援に役立てる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との関わり方	地域住民との交流機会が多くなく、安全が確認出来たら参加している。引き続き参加をしていきたい。	地域の行事や活動に積極的に参加し、地域住民と直接触れ合うことで、放課後等デイサービスや障がいをもった児童への理解を深めてもらう。
2			
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
このこのリーフ滝野川第2		2026年 1月 5日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		利用者が快適に過ごせるスペースを確保できる利用定員となっている。	自由時間は、玩具の出しすぎに注意をしていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		利用者に配慮できる人数配置をしている。	資格者の求人募集に引き続き力を入れていきたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		手すり等を設置している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		換気と消毒、清掃は毎日行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		必要な場合は開放し、使用している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		申し送りやミーティングで広く職員が参画している。	シフトの調整をしながらミーティングの機会を増やすことができるようにしていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		保護者向け評価表を活用している。	送迎時なども保護者様とコミュニケーションをとり、その内容について連絡、報告、相談を社内で強化していく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		ミーティングを行い、職員間の意見交換の場となっている。	ミーティングで話にくいこと等があれば、職員1人ひとりから意見を聞く面談などを設けていく。気軽に話ができる環境作りをしていく。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>	第三者委員等の受審は行っていない。	支援の質を向上させるため、第三者評価を検討する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		研修への参加は積極的に行っている。参加後は研修参加職員による伝達研修を行い共有をしている。	長期休みなどなかなか伝達研修の時間をとることが難しい時は、長期休み後に調整できるようにしていく。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		作成し、HP上で公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		保護者との面談、送迎時の会話等で話を伺っている。他にも学校の先生にも聞き、それをもとに作成している。	客観的に分析するために保護者様や学校の先生の話を細かく記録し、計画書作成時に検討していく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		定期的にミーティング等で情報共有や検討を行っている。	全員での検討がなかなか難しい現状があるため、ミーティングに参加できない職員には日々の支援の中で話をして全員で検討していく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		個別支援計画を作成し、いつでも職員が見ることができるよう配慮している。	個々で放課後等デイサービス計画を見ていただいている現状のため、全体で共有する場を設ける。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		個人記録や日々の行動観察をしながら支援方法を検討している。	より細かな行動観察と記録をし、検討しやすいような記録を残しておくようにする。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		「5領域」に対して具体的な目標を設定し作成を行っている。	地域支援・地域連携に向けて日々地域と関わりを持ち、具体的な目標が立てられるようにしていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		子どもの年齢、特性に合わせて職員間で話し合い工夫している。	興味関心を持ってもらえるような立案を心がける。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>		季節やイベント事、外出などにも取り組んでいる。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	<input type="radio"/>		個別、集団活動を組み合わせ、支援することができている。	子どもの状況に合わせて、さらに個別に支援をしていければもっと良い支援になるかと思う。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	<input type="radio"/>		支援開始前にミーティング、出来なければの申し送りノートで情報共有している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	<input type="radio"/>		その日起きたことを職員間で共有することが出来ている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	<input type="radio"/>		毎日支援に対する記録を取り、支援の反省をその日に行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	<input type="radio"/>		半年ごとにモニタリングを行っている。	職員全員でモニタリングに取り組むことにより、より職員全員が1人1人の児童に対して考える時間を作っていく。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	<input type="radio"/>		総則に則り、支援を行っている。	偏りが出来ないように、全体のバランスを見ながら支援を行っている。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	<input type="radio"/>		2択等を使用し、本人の意思が尊重できるよう支援を行っている。	沢山の場面で自己選択ができるよう、さらにツールを増やして提供する。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	<input type="radio"/>		コロナ禍以降実施されることが減ったが、会議が行われる場合は出席する者を職員間で話し合い、決めている。	コロナ禍以降実施される機会が減ったため、積極的に参加をしたい。また全員が子どもの状況を理解できるように日々関わりを持って支援していく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	<input type="radio"/>		利用者の主治医情報や事業所の連携医療機関を整えている。	情報は頂いているが、情報の変更等があった場合について都度連絡してもらおう今後周知する。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	<input type="radio"/>		月に一度、学校で会議を行い情報を共有している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	<input type="radio"/>		事業所等の共有は無く、ご家族からの情報共有が主となっている。	プライバシー保護の観点から保護者等に確認をし、必要であればその都度検討していく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	<input type="radio"/>		希望があれば、必要に応じて提供していきたい。	提供する場合があれば、保護者等に相談し、必要な情報をまとめる必要がある。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	<input type="radio"/>		電話で情報共有したり、研修等には積極的に参加している。	新しいパート・アルバイトスタッフにもその都度研修の参加を促していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	<input type="radio"/>		交流目的の活動は無いが、お散歩や公園に行った際などに交流することはある。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	<input type="radio"/>		研修には積極的に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	<input type="radio"/>		送迎時の申し送り、HUGを用いて子どもの状況を伝えている。	こどもの発達の状況や課題については、日々変わっていくのでその都度、相談をさせて頂いている。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	<input type="radio"/>		面談時や送迎時に提案をしている。	繊細な情報を取り扱う場面もあるため注意が必要である。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	<input type="radio"/>		利用開始前に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	<input type="radio"/>		面談やモニタリング等を行い、意見を踏まえたうえで作成している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	<input type="radio"/>		面談時に「放課後等デイサービス計画」の確認を一緒に行っている。同意を頂き、サインをしていただいている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		専門性を有する職員が助言を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、兄弟同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	希望されていない意見が多く、現在は実施していない。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情があった場合は迅速に対応し、職員全員で改善策を考えている。	苦情については都度対応していき、スタッフ間でも周知していく。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		月に一度、会報を発行している。	今後はインスタグラムを活用していく予定である。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報載っている紙はシュレッダーを用いて破棄している。	個人名はできるだけ記載しないようにしていく必要がある。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		研修やミーティングでサインの周知等を行っている。	個人や経験によって対応に差が生まれてしまうため、定期的にスタッフ間で対応を統一できるようにしていく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	現在は行っていない。	安全性が担保されないため、今後も難しいと思われるが、検討はしていきたい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルを策定し、契約時に資料や口頭による説明を行っている。	スタッフ全員が即座に対応ができるよう、普段からレクチャーしたり、訓練の頻度を増やす必要がある。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		月に一度、避難訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		事業所見学の際に服薬状況や発作の有無を確認している。利用が確定したら、発作時の対応を保護者へ確認を行っている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		指示書は無いが、保護者からのヒアリングで対応している。	指示書が必要であれば保護者に確認をとり、コピーをいただくなどの対応を行っている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成している。また定期的に避難訓練や内部研修を行い意識を高めている。	事業所の面積に限りがあるため、備蓄については再度検討する必要がある。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時に資料や口頭による説明を行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットがあった際は迅速に書類を作成し共有している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		ミーティングや研修への参加をしている。出勤日数によっては研修参加が難しいスタッフもいるため、資料にて伝達している。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		現在、拘束を必要とする児童はいない。	